

広報

もり 中部の森林

Good Wood
Workers

詳しくは
こちら



写真
募集中!

令和4年12月23日

林業従事者写真コンテスト

撮影は安全第一で

私の森語り「木材が当たり前にある社会へ」
飛騨五木株式会社 響hibi-ki編集部 田中 菜月

写真：「岳沢登山口近くの森で」(中信署管内 上高地)

特集

・森太郎を送る会

各地からの便り

・事故防止や山火事注意呼びかけ！ 森林合同パトロール実施ほか
シリーズ

・森林官からの便り、私の森語り、中部の保護林、
秘蔵写真・今は昔の林業、お役に立ちます国有林、
国有林モニターのご紹介



国民の森林・国有林

林野庁中部森林管理局



2022/No.221

多くの人に愛されたブナの巨木 森太郎を送る会

【北信森林管理署】

七月三日、飯山市大神楽国有林において、ブナの巨人「森太郎」を送る会が開催されました。

森太郎は、樹齢三百年以上と推定されるブナの巨木で、昭和六十一年、鍋倉山開発計画が進められていた最中に存在が確認されました。

その後、自然保護運動により計画は中止され、以降、鍋倉山ブナ林の象徴として、多くの人に愛されてきた巨木ですが、今年の五月に倒伏していることが確認されたことを受け、いやまブナの森倶楽部が送る会を企画し、遠方から駆けつけた方も含め、約三十名が参加しました。

午前中に倒れた森太郎のもとへ行き、メッセージを書いた木の円盤と野草のブーケを根元に手向け、追悼を行いました。森太郎は地上約六メートルの高さで折れており、残った幹

の内部は人が入れるほどの空洞ができていました。

倒伏の原因は、樹体内部がほとんど腐った状態で水を吸い上げたことにより、自重の増加に耐えられなかったためと推測されておりますが、倒れてもなお存在感のあるその姿に、参加者は見入っていました。

ました。

六月三日に樹木医の先生と倒伏した森太郎を確認したあの時も、そして、送る会の時も、現地において短い時間ではありましたが降雨となり、森太郎からのお別れのあいさつのように感じました。午後には麓の温井大応寺で座談

会が行われ、森太郎や鍋倉山のこについて語り合い、「倒伏した森太郎を子どもたちの学習に役立てたらどうか」「これからは、ブナの森全体を見てもらうようにようか」などの意見が交わされ、今後の活動に向けて有意義な会となりました。



倒れてもなお存在感のある森太郎の姿

森太郎 思い出をありがとう

平成7年7月号

平成12年5月号

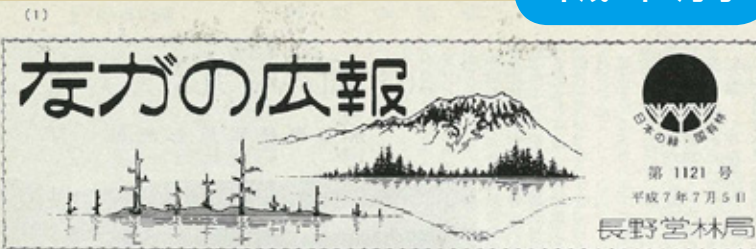
「森の巨人たち百選」

—当管内から五本を選定—

林野庁の「森の巨人たち百選」で、当管内からもカヤノ平のブナ（森太郎）等五本が選定されました。今後は、この巨木を守るため、地元の人々等からなる協議会を設立し、協力して巨木の適切な保護管理を行うこととしています。



ブナ（愛称：森太郎）・北信署管内
絶ヶ岳国有林（鍋倉山）170林班
樹高 25m 直径 170cm



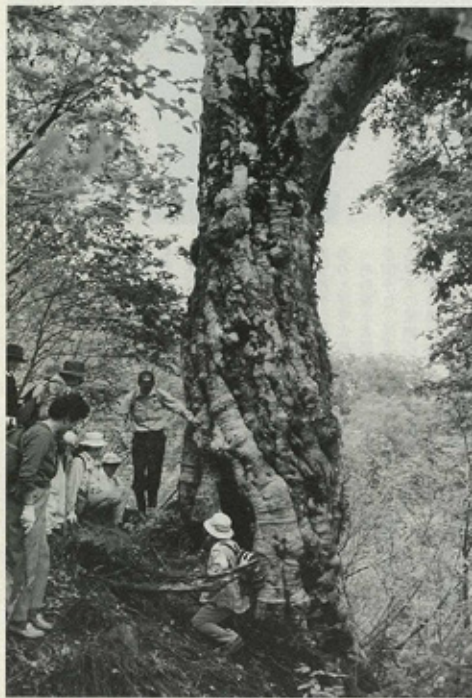
森太郎・貴婦人に会いに

森林倶楽部

新緑の「鍋倉山郷土の森」で六月十八日、今年度初の森林倶楽部のイベントを開催した。

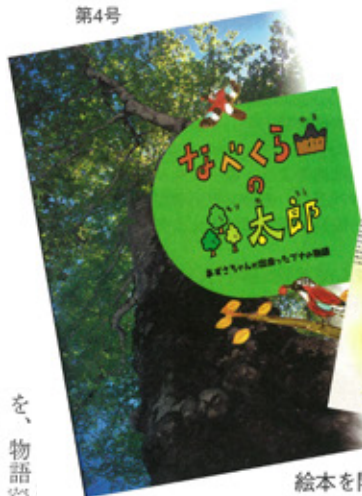
一行は、茶屋池林間広場で郡営林局長のあいさつ、小山飯山市長の歓迎のことばを受けた後、八班に分かれインスタラクターの案内で、茶屋池の一周コース一・キロを一時間程掛けて、植物観察、森林浴をしながら足ならしをした。

昼食には、笹の葉に包まれたおにぎり、根曲りの竹の子汁とサラダなど地元の味覚を味わいながら、食沢信子氏のインディアンハットと森太郎のインディアンハットの演奏に耳を傾けた。午後には、ブナの大木が立ち並ぶ「巨木の谷」と呼ばれている森林をめざす健脚コースの四班と、ブナ林・間田峠のゆっくり散策コースの四班に分かれて出発した。巨木の谷には「森太郎・貴婦



平成16年7月号

第4号



絵本を開くと解説が！

を、物語（絵本仕立て）と解説（教材）により一冊の本にまとめています。



作成しました。

成しました。

「なべくら山の森太郎
—あずさちゃんが出会った
ブナの物語—」

「指導普及課」中部森林管理局と（財）飯山市振興公社 鍋倉高原・森の家では、今回、なべくら高原のブナ・森太郎を題材とした森林学習の教本を共同で作成しました。

鍋倉山のブナを題材とした 森林学習の教本が完成！

森林環境教育を実施するに当たり、小学生向けの森林・林業の教材が少なかったことから、北信地方の森林を代表するブナ林を題材として、当局職員と森太郎をはじめとする鍋倉高原・森の家のメンバーの協力を得て完成しました。



登山道沿いで声かけする様子



林道でパトロール車を停めて注意喚起



山菜採りの方へ注意喚起する様子



展望広場で声かけする警察官

**事故防止や山火事注意呼びかけ！
森林合同パトロール実施**

【飛騨森林管理署】

六月九日、飛騨市宮川町打保地区及び万波国有林において飛騨市役所及び飛騨警察署と協力し、遭難事故防止や山火事予防等を目的とした森林合同パトロールを実施しました。

パトロールを実施した地域は例年、タケノコなど山菜が採れるこの時期になると、地元の方だけでなく、富山県など県外からも多くの方が訪れますが、道路が狭く危険な箇所が多いこと、山菜採りに起因した遭難事案の発生が危惧されること、火の不始末による山火事の発生も心配されることから、昨年度より合同でパトロールを実施しています。

各機関から参加した九名は、飛騨市宮川振興事務所において出発式を行ったあと、それぞれの車に乗り込み、富山県との県境にある白木峰の登山口まで車両によるパトロールを実施し、途中ですれ違

う車に安全運転などの呼びかけを行いました。

登山口からは、徒歩により県境の尾根(小白木)までの区間においてパトロールを行いました。

途中、藪の中を一人で歩く方を発見し、警察官が声をかけると、その方の顔面に血がついている様子が見えました。一同に緊張が走りましたが、鼻を藪で突いて鼻血が出ただけだと判明し一安心。気をつけて下山するよう話をしました。

この日、県境に接する別の地域では、行方不明者の捜索が実施されていたこともあり、小白木近くの展望広場で休憩されていた女性グループの方には声をかけ合ってお互いの位置を確認するなど、事故防止に努めるよう呼びかけも行いました。

山菜の時期は過ぎましたが、夏から秋にかけては日帰り登山の利用者が増えますので、今後も関係機関と協力し、安全で安心して国有林を利用していただけるよう努めていきたいと思えます。

《各地からの便り》

田の原天然公園での
ボランティア活動

【木曽森林管理署】

六月七日、木曽郡王滝村御岳国有林のレクリエーションの森である「田の原天然公園」において、長野林業土木協会木曽支部主催による遊歩道整備のボランティア活動が行われました。

長野県木曽郡、岐阜県中津川市の土木・林業の事業者でつくる同協会同支部では、社会貢献の活動として、毎年木曽地域の国有林に所在するレクリエーションの森などの環境美化活動を行っています。

当日は、御嶽山が雲で見え隠れする肌寒い日でしたが、同協会に加盟する十一社に、王滝村役場と当署の職員が加わり、約四十名の参加者が二班に分かれ、老朽化した木製遊歩道の敷板を撤去するためのクギ抜きや、遊歩道脇のロープの取り外しなどを行いました。

現地は、重機が入れない場所のため、ボールやハンマーを使っての手作業となり、敷板から錆びた



ボールを使用してクギを抜く協会員

太い釘を抜くのに苦戦している様子も見られました。

田の原天然公園の近くには、今年の八月二十七日に「長野県立御嶽山ビジタセンター（やまテラス王滝）」が完成する予定であり、登山客や観光客の増加が見込まれます。

当署では、今後も王滝村や関係団体等と連携し、山村地域の振興に努めていきます。

三六災害六十年シンポジウム
開催される

【南信森林管理署】

伊那谷総合合治山事業所

六月十二日、飯田文化会館において、国、長野県、地元自治体など十八機関からなる実行委員会が主催する「三六災害六十年シンポジウム」が開催されました。

これは、昭和三十六年六月、伊那谷を襲った集中豪雨により、伊那谷の各所で堤防が決壊し、土石流やがけ崩れ等も引き起こした日本の災害史上に残る大惨事である「三六災害」から六十年を迎えたことを節目に、忘れかけた記憶を思い起こし、災害の実態を教訓として後世に継承し、水害・土砂災害に備えた地域づくりを目指すことを目的として計画されたもので、地元住民を含め、約三百五十名が参集しました。

開催にあたり、実行委員会の委員長である信州大学名誉教授の北澤秋司先生から開会のご挨拶をいただき、基調講演では、牧野裕至氏が「天竜川上流域の降雨特性と



パネルディスカッションの様子

地形」(三六災害豪雨等の特性)と題し、近年多発傾向にある豪雨災害の分析に基づく伊那谷の地形と気象、災害発生メカニズム、減災対策等について解説してくれました。

また、地元住民代表等がパネリストとなり、実際の経験談に基づくパネルディスカッションのほか、会館ロビーでは「三六災害」や「地域防災」等に関するパネル展示も行われ、当局でもパネルやパンフレット提供を行い、「災害を語り、つなぐ」ことの重要性を再認識できる良いシンポジウムとなりました。

地拵クラッシュャーの
作業見学会を開催

【北信森林管理署】

六月二十日、上水内郡信濃町霊仙寺山国有林において、当署及び長野森林組合の主催により、「新しい林業への挑戦」と題して、地拵クラッシュャーの作業見学会を開催しました。

地拵は、造林地に苗木を植える前に、植付作業の支障となる枝条や下草などを取り除き、地表をきれいに整理しておくことですが、人力による作業では、伐根の除去までではできません。しかし、地拵クラッシュャーは、専用のアタッチメントをバックホウに取り付け、機械の力で枝条や伐根などを粉々に砕いてチップ化し、その場に散布することができ、雑草の抑制、植付の効率化、下刈りの機械化などが期待できるものです。

昨年度は、林業関係団体等の方々が本見学会に参加されましたが、今回は、長野市や須坂市の林務担当者、近隣の森林管理署の職員など、四十名以上が参加し、バツ



クホウの動き方や作業スピードなどを熱心に観察し、実演後には、多くの質問や意見が寄せられ、本取組に対する注目度が高いことがうかがえました。

今後、通常の地拵との比較、工程調査、雑草の抑制効果などの検証を進めるとともに機器の改良を行い、低コストで効率的な森林施業の実践に向けて、関係機関等と協力し合いながら、更なる取組を進めたいと考えています。



作業風景 (上)



作業により削られた伐根 (左)

森林作業道の
現地検討会を開催

【資源活用課】

六月二十二日、二十三日の二日間、森林官や監督職員等を対象とした森林作業道の現地検討会を愛知県内で開催しました。

今回の検討会は、全国的に作業路網の開設に起因する林地崩壊による土砂流出被害の事例があることや、管内の立木販売や素材生産事業において、森林作業道による搬出が約八割を占めていることから、作業道作設を行う事業者等に適切な指導等が行える人材育成を目的に開催しました。また、民間連携の取組として、豊田市、新城市、森林整備センター中部整備局の職員の方も参加しました。

一日目は、降雨が心配される中、岡崎市閨苅国国有林にて、約十年前に開設された森林作業道の切土部、盛土部、縦断勾配、水切など、検討ポイントを設定し、その工法の検証と当該作業道を再利用する場合の手法等について検討を行いました。



森林作業道の工法を検討する参加者

二日目は、愛知所会議室において、一日目の振り返りと、路網支援ツールの操作方法、CS立体図の活用方法、林地保全に関する各種通知についての周知を行い、活発な意見交換等が行われました。今後とも民有林と連携し、国有林のフィールドを生かした検討会等を開催し、市町村、事業者等の地域全体のスキルアップに取り組みたいと考えています。

**国有林の低コスト造林の取組を
民有林へも**

【森林整備課】

七月五日、長野県林務担当者及び県内林業事業者を東信森林管理署管内のカラマツコンテナ苗の植栽地や低コスト造林事業地へ案内しました。

これは、長野県から、民有林における主伐・再造林を進めるにあたり、国有林が率先して取り組んでいるコンテナ苗の植栽や低コスト造林事業地を視察したいとの要望を踏まえて実施したものです。

当日は、雨模様ではありませんでしたが、平成二十九年に植栽を実施した国有林二箇所、「低密度植栽」「下刈りの省力化」「機械地拵」「有用広葉樹の保残」等の低コスト造林の取組事例を視察していただきました。

現地では、カラマツコンテナ苗の成長状況を確認しつつ、積極的な意見交換が行われ、参加者からは「主伐再造林を進めるうえで職員の意識が変わるいい機会だ」「広葉樹の保残は、主伐の理解を得る



現地での意見交換

ためには重要な方法である」「植栽木をどのように保育していくのか、数年後に再度現地を視察したい」等の声をいただきました。

中部森林管理局では、取組事項の一つに「林業の成長産業化への貢献」を掲げています。

今回のような国有林を活用した低コスト造林を含む、新たな林業技術の普及を進めていくことによつて、民有林と国有林が連携した主伐・再造林を推進し、森林の循環利用に貢献していくことを目指しています。

**岐阜県立森林文化アカデミーの
国有林実習で実験林等を案内**

【森林技術・支援センター
岐阜森林管理署】

六月三十日、岐阜署管内の乗政及び小川長洞国有林において、岐阜県立森林文化アカデミーのエンジニア科二年の学生二十三名が、国有林の施業について現地実習を行いました。

始めに、当支援センター及び岐阜署の職員が、実験林や試験地等の概要について説明し、その後、乗政国有林において、「ヒノキ長伐期施業林」を見学しました。

当該施業林は、平成二十八年度に製品生産請負事業で間伐材を搬出した箇所であり、岐阜署の職員から林齢が百年を超える人工林の間伐や木材販売について説明しました。

この箇所では樹冠や林床の状況を確認し、今後の施業方法について意見交換を行い、「学生からは二十年后に間伐する」「択伐して大径材とする」等の意見が出されていました。



ヒノキ長伐期施業林の見学状況

また、小川長洞国有林の「ヒノキ間伐実験林」では、間伐率の異なる試験地において、間伐の効果やプロット毎の優劣を見学し、今後の伐採方法等について、学生同士の意見交換が行われました。

それぞれの専攻分野に応じた様々な意見が出される中、当センター職員からは実験林の研究結果や今後の施業方針について説明を行いました。

気温が三十五度を超える猛暑の中での現地実習となりましたが、学生の皆さんは暑さにも負けず、充実した現地実習となったようです。今後も学校等からの要請に応じ、国有林の案内や情報提供に努めていきたいと考えています。

南木曾小学校三年生の森林教室
地域の森林も木も大好きに

【木曾森林管理署南木曾支署】

七月一日、蘭美林自然探勝園で、南木曾小学校三年生を対象とした森林教室を行いました。

木曾郡南木曾町では、森林の重要性を理解するため、自然散策、人と水との関わり、体験林業などの学習を体系的に行っており、南木曾小学校から「実際に森林の中で学習したい」との要望を受け、五班に分かれて国有林内を案内しました。

今年梅雨明けも早く、朝から気温が高かったのですが、二十九名の児童たちは、暑さに負けないくらい元気に集合し、森林教室を楽しみにしていた様子が見られました。

まずは、森林の働きや国有林の仕事について学んでもらい、木曾五木の名前も教えようとする、事前に調べてきたのか、「ネズコつて名前の木あるよね」「アスナロは、明日、ひのきになろうが名前の由来でしょ」など、次々に嬉し



根上がりの木との出会い

そうに発言してくれたことに感心しました。

また、森林の中に、モミとツガの稚樹があり、「この葉っぱは、見た目が同じだけど、葉っぱの先を触ってチクチクする方がモミで、チクチクしない方はツガなんだよ」と教えると、実際に触れて違いを確かめる姿や、根上がり木の説明では、「木の根っこが地面から出て育っているのを初めて見た！すごいね！」との感想がありました。

次に、実際に間伐事業をしている箇所を安全な場所から見学してもらいました。

最近、小学校では社会の授業で林業について学び始めたというところで、重さが六割もあるチェーンソーを持たせてもらったり、山から木が運ばれてくる様子や、機械が動いているところなど、普段は見ることができない林業の仕事を間近で見せてもらったりし、説明を聞きながら真剣にメモをとっていました。

そして、約三時間の森林教室が終了すると「森林教室楽しい！また明日も、毎日来たい！」との明るい声が聞こえ、自然とふれ合いながら、森林のこと、林業のことをみんなで楽しく学べたようでした。

後日、「木や森のことが好きになりました」と書かれたお礼状をいただき、国有林に来て、見て、学んで、感じてもらったことで、森林の大切さや、循環利用できる木材を生産している森林が身近にあることを知り、自分たちが住んでいる地域のことをもっと好きに



普段は見られない林業の仕事を見学

なったのではないかと思います。将来、一緒に未来の森林づくりを考えてくれる児童がいてくれたらと密かに願っています。



昭和59年「名古屋林政記者クラブ発足」の記事を見つめる片桐氏

また、「地域密着の情報発信」を編集方針とした木材工業新聞の発行人として、四十五年の長きにわたり、東海地区の森林・林業・木材関連産業等の情報を紙面により発信し、木材界が最も激動の時代に新聞紙面だけでなく、関連団体等の各種行事の主催や記念誌等の発行を通じ、国産材の利用促進や

片桐氏は、昭和五十八年に木材界專業紙八社の参画による「林政記者クラブ」の立ち上げに関わり、翌年四月一日には、正式に「名古屋林政記者クラブ」を発足させ、初代の代表幹事に就任し、林野行政及び県林政等とのパイプ役として、時には一歩踏み込んだ提言をいただくなど、幅広くご活躍いただけてきたところです。

七月七日、名古屋事務所において、株式会社木材工業新聞社の片桐峯生氏に難波次長（名古屋事務所長）より、中部森林管理局長感謝状を贈呈いたしました。

**片桐峯生氏に
中部森林管理局長感謝状を贈呈**

【名古屋事務所・資源活用課】



記念撮影（前列中央が片桐氏）

利用拡大に大きく貢献いただきました。木材工業新聞は、令和四年三月に七十五年間の歴史に幕を下ろしましたが、贈呈式には当局のOBも駆けつけ、懐かしい映像もご覧いただきました。

片桐氏からは、感謝のお言葉と「これからも何らかの形で、大好きな木材界に関わってまいりたいと思っております。」と今後に向けた力強いメッセージをいただきました。益々のご活躍を祈念いたします。



世界遺産 五箇山合掌造り

【富山森林管理署 砺波森林事務所】
 砺波森林事務所は、富山県西部の南砺市に所在し、石川県白山市と岐阜県飛騨市および白川村に隣接する国有林約八、五〇〇ヘクタールと官行造林約二四五ヘクタールを管理しています。

南砺市は、世界遺産の相倉・菅沼集落からなる五箇山合掌造りや、越中の小京都と呼ばれる旧

シリーズ

森林官からの便り

国有林の現場の最前線で、働く森林官の仕事や、管轄する地域の特徴などを紹介します。



船でしか行けない秘境の一軒宿 大牧温泉

城端町、木彫り彫刻で知られる旧井波町など、自然と伝統文化が融合した情緒あふれるまちです。

管内の水無国有林は、飛騨市と接しており、全域が白木水無県立自然公園に指定され、森林の約六割がスギを主体とした人工林で、残りはブナなどの広葉樹を主体とした天然林です。

また、ミズバシヨウやリュウキンカなどが見られる湿原があり、周囲のブナ林とともに「水無湿性植物群落保護林」に指定されています。近年は、湿原の乾燥化によ



水無国有林のミズバシヨウ群落

る湿性植物の減少やイノシシによるミズバシヨウの被害も確認されていることから、NPO法人利賀飛翔の会と連携し、ワイヤーメツシユの敷設による食害防止対策を行うなど、湿原全体の保護保全活動に取り組んでいます。

一方、石川県と接する国有林は、ブナ・ミズナラなどの広葉樹を主体とした天然林で、この一帯は、富山・岐阜・石川・福井の四県にまたがる白山山系緑の回廊（コリドー）に指定され、野生生物の移動経路の確保等、森林生態系の保護、生物多様性の保全が図られています。また、最南部に位置する桂国有林は、日本三百名山の大笠山をはじめとした山々が連な



現場巡視にて（右端筆者）

る山岳地帯であり、白山国立公園に指定されています。

管内には人工林も天然林もあるため、立木の調査、境界の維持管理、国有林の貸付、官行造林地の管理など、幅広い業務を行っています。

■未来の担い手へのメッセージ
 隣接する神通森林事務所の森林官も併任しているため、まだまだ管内すべてを把握できたわけではなく、忙しい毎日ではありますが、充実しています。自然を相手にできる職場なので、森林や林業に関心のある方は、ぜひ就職を考えてみてはどうでしょうか。



〈シリーズ「私の森語り」〉

シリーズ

「私の森語り」

もりかた

森林・林業との関わりの中で、
様々な課題に挑戦されている方
の取組を紹介します。



「木材が当たり前にある社会へ」



飛騨五木株式会社
響hibi-ki編集部
たなか 菜月

■自己紹介

大学卒業後、二年間編集・ライター業を経験したあと、岐阜県立森林文化アカデミーで林業を学び、飛騨五木株式会社に入社しました。六年目の現在は、オウンドメディア「響hibi-ki」の運営を担当し、取材・執筆したり、イベント等を企画したりしています。

■活動内容

飛騨五木グループは、株式会社井上工務店、飛騨五木株式会社、すみれ地域信託株式会社、すみれリビング株式会社などから成り立

ち、川上から川下まで、森林資源の多岐にわたる活用・運用を通じて林業の六次産業化を目指し事業を展開中です。

中でも飛騨五木株式会社では、地域商社として、全国の木材産地から集めたおもちゃや雑貨のセレクトショップ、木質空間を活かした遊び場施設の運営を行っています。日常で森林や木材に触れる機会の少ない方々に対して、木を身近に感じてファンになってもらえるきっかけづくりを模索し続けています。昨年三月にオープンした公園施設「カカミガハラパークブリッジ」は、企画・建設から運営までをグループ内で一貫して取り組んできました。同施設はP・PFI制度を活用しており、公園周辺のにぎわい創出に向けて各務原市や市民団体とも連携しながら、まちづくりにも尽力しています。そして、私が担当している「響



「KAKAMIGAHARA PARK BRIDGE」の外観
昨年ウッドデザイン賞林野庁長官賞を受賞

ジナル林業ボードゲームを活用した出前授業も実施してきました。こうしたメディアに留まらない活動を展開しているのは、業界内外の多彩な人々が混ざり合い、いつか思わぬ化学反応が生まれることをどこかで期待しているからかもしれません。

■メッセージ

私たち響hibi-ki編集部は飛騨五木グループ内のあらゆる事業の窓口を担当しています。気になることなどありましたら、ぜひお気軽にご連絡ください。メディアSNSのDMなどからご連絡いただいても大丈夫です。また、取材ネタも常に探しています。耳寄りな情報がありましたらお寄せいただけると嬉しいですよ！

○連絡先

飛騨五木株式会社
岐阜県高山市

江名子町2715-11
0577-330480
info@goboc.jp



亜高山性針葉樹の天然林

きんぼうさん
金峰山

生物群集保護林

設定目的

奥秩父山塊の主脈に位置し、金峰山(二、五九五^{メートル})、朝日岳(二、五八〇^{メートル})、国師岳(二、五九二^{メートル})等が連なる尾根筋はハイマツ、シヤクナゲ、ツガザクラ、コケモモ、トウヤクリンドウ、ガンコウラシ等から構成される高山植物群落となっています。その下部にはカラマツ、オオシラビソ、シラビソ、コメツガ等の亜高山性針葉樹の森が広がっており、これらの植物群落を一体的に保護しています。

地況・林況

金峰山は長野県側では「きんぼうさん」、山梨県側では「きんぷさん」と呼ばれ、平安時代初期頃より山岳信仰の対象とされてきた山です。

日本百名山のひとつで、登山道沿いのアズマシヤクナゲや山頂付近の薄い黄色の花を咲かせるキバナシヤクナゲが登山者を楽しませています。

日本海側河川の千曲川支流と太平洋側河川の富士川支流を分ける中央分水嶺であり、南アルプス・富士山が南限で日本海側の多雪山岳地に比較的优势なオオシラビソと、太平洋側の雪の少ない山岳地に優勢なシラビソが混生しています。

所在地
長野県川上村



※自然保護のため、詳細な位置情報は掲載しておりません。

国有林野には、世界自然遺産を始めとする原生的な森林生態系を有する森林や、希少な野生生物の生育・生息の場となっている森林が多く残されています。

国有林野事業では、1915年(大正4年)以降、こうした貴重な森林を「保護林」として設定し、森林や野生生物等の状況変化に関する定期的なモニタリング調査を実施して、森林の厳格な保護・管理を行っています。

お問い合わせ先：計画保全部計画課 ダイヤルイン：026-236-2612



※詳細は、QRコードを読み込んでください。

シリーズ

秘蔵写真

今は昔の林業

第16回

中部森林管理局技術普及課

井上 日呂登

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともにご紹介します。

「枝打ち」



昭和四十年代頃のはしごを使った枝打ち風景
(旧名古屋営林局管内)

樹木の枝を切る「枝打ち」の大きな目的は節が少なく真っ直ぐな木材を生産することです。枝打ちはある程度の太さがあり木材としての価値が高い部分、根元から高さ八メートルまでの間で行うことが多いものです。刃物で枝を切るといふシンプルな作業ですが、人の背丈よりも高い所の枝を扱うものだから、



昭和四十年代頃の木に登りながらの枝打ち風景
(旧長野営林局管内)

やり方、使う道具には幾つもの種類がありました。

枝を切るための道具としては鉋、手鋸、小さい斧、あるいは枝切り用の鋏などが使われました。作業の際に木の幹を傷つけてしまつてはいけませんし、枝の部分を残し過ぎても残る節が大きくなつてしまいますから、業者の技術力・熟練が必要な仕事です。また、高い位置に登るために足にスパイクを付けたリ、木製または金属製の各種はしごをかけたリもしました。さらには、とても長い柄の鎌

を使って枝を切るやり方や枝打ちロボットが検討されたこともありました。節が少ない木材は価値が高くなりますので、かつて枝打ちは熱心に取り組まれた作業だったのですが、その後、節の有無がそれほど重要視されなくなつていったこと、製材加工技術の進歩などから、国有林で枝打ちが行われる機会は少なくなつていきました。



様々な作業が同時に行われている枝打ち風景
(旧名古屋営林局管内)

ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むかしの写真を紹介するサイトです。当サイトへは、QRコードを読み込んでください。





中部森林管理局では、森林の公益的機能の発揮や林業の成長産業化に向けて様々な取組を行っています。その中から民有林行政、林業や森林土木事業に携わる皆様に、参考にしていただけたら幸いです。

また、当局ホームページにおいてもこれらの事例を紹介しています。

詳細は、QRコードを読み込んでください。



森林環境教育を行う場所の提供

1. ねらい

学校や自治体などが継続的に自然観察会や林業体験会などを開催するため、活動に適した国有林を協定に基づいてお使いいただいています。

2. 概要

学校や自治体などと森林管理署が協定を締結することにより、子供たちなどが森林の中で、実際に木や緑に触れ、遊び、学ぶ場となる「遊々の森」が、令和 4 年 5 月現在で 12 箇所（323.93ha）設定されています。

協定の相手方は小学校、大学、自治体、教育委員会などで、継続的に自然観察や林業体験などの活動を行っています。

3. 成果

例えば、平成 20 年に長野県小県郡長和町立和田小学校と協定を締結した遊々の森「和田小学校黒耀の森」(2.35ha) では、毎年、同小学校 3 年生が森林学習を実施しています。



和田小学校黒耀の森

遊々の森協定締結一覧

令和 4 年 5 月 26 日現在

名称	実施主体	所在地
山童の森	学校法人 東京環境工科学園 東京環境工科専門学校	長野県 上水内郡信濃町
御代田町遊々の森	御代田町	長野県 北佐久郡御代田町
ともりん	中野区教育委員会	長野県 北佐久郡軽井沢町
和田小学校黒耀の森	長和町立和田小学校	長野県 小県郡長和町
練馬区遊々の森	練馬区教育委員会	長野県 北佐久郡軽井沢町
ソフィアの森	上智大学大学院	長野県 北佐久郡軽井沢町
UWC ISAK Japan 大日向遊々の森	学校法人 ユナイテッド・ワールド・ カレッジISAKジャパン	長野県 北佐久郡軽井沢町
多摩市民の森 ・フレンドツリー	多摩市	長野県 諏訪郡富士見町
つながる遊学の森	高山市立栃尾小学校	岐阜県高山市
源流の森	高山市	岐阜県高山市
みんなの森	犬山市立今井小学校 犬山市	愛知県犬山市
神明の森	瀬戸市立掛川小学校	愛知県瀬戸市

4. 問い合わせ先

技術普及課 **電話026-236-2630**

お役に立ちます
国有林

民有林行政、林業や森林土木事業に携わる皆様へ



国民の森林・国有林

国有林モニターのご紹介



ましまひろ 正浩
さめしま 鮫島 (長野県)

◇自己PR・(趣味や特技など)

現在、六十八歳です。

出身地は東京都渋谷区ですが、少年時代から都会の喧噪を離れて野山を歩くことが好きで、高校時代には山岳部に所属しました。また、大学では林産学を専攻しましたが、その後も大学に留まり、今日に至るまで木材やバイオマスの利活用を考えながら研究と教育を仕事にしています。

趣味や特技と言えることではありませんが、森や山に近いところで生活したいという強い願望とともに十四年前に東京都か

ら長野県東御市に引っ越して、県産材を利用した自分好みの家を建て住み、休日には森や山歩きを楽しむ生活を送っています。

◇国有林モニターに

応募いただいた理由

仕事の関係で長野県の森林資源とその利活用について調べている中、中部森林管理局で国有林モニターを募集していることに気づき、国有林の活動についてより深く知りたいと思って応募しました。

◇国有林に期待すること

国土面積の二割、森林面積の三割を占めている国有林は国民にとって大変に貴重な財産だと思っています。様々な形での公益的な役割と機能をさらに高めるとともに、そのことを広く人々に理解していただけるような活動の展開を継続していくことを期待しています。

令和四年度 職員の永年勤続表彰

永年にわたり業務に精励した職員に対する「永年勤続表彰」が各署等において行われました。本年度の当局における一級精勤賞（勤続年数三十年）の受賞者は十名、二級精勤賞（勤続年数二十年）の受賞者は六名です。局勤務の七名の職員には八月三日、関口局長より表彰状と副賞が授与され、お祝いの言葉とともに、苦楽をともにされてきたご家族の方々への感謝の言葉をいただきました。受賞者の皆様のますますのご活躍を祈念いたします。



局庁舎前での記念撮影

編集長だより

(中部の森林へのご意見・ご要望等の投稿は、migoro@maff.go.jpまで電子メールでお送りください。)

森のなかで芽を出した森太郎は、
厳しい自然のなかで、ぐんぐん生長していきました。
(森太郎じい) 「少しぐらい大きくなっても、笹や草などの背の高い植物にじまされて、お日様の光を浴びられなくて、なかなか大きくなれなかったんだよ。ある日、近くにあった大きなおじいさんの木が枯れて倒れ、お日様の光がわしのところへもいっぱい届くようになったんだ。」
(あずさちゃん) 「よかったね。」
(森太郎じい) 「うん、わしらにとってお日様はごはんと同じだからね。」

これは、平成16年に作成した絵本「なべくら山の森太郎～あずさちゃんが出会ったブナの物語～」の中で昔話をしている一コマです。巨木の森太郎が倒れたという知らせを受けたときは、間違いであってほしいと思いましたが、絵本のように世代交代が行われ、鶴倉山のブナ林は、また、豊かな森林になって行きますね。森太郎じいさま、長い間、おつかれさまでした。わたしたちに感動や生きる力も与えていただき、ありがとうございました。



